

現代の問題、ハラスメント、人間関係

§ 1. 現代の問題

1. 多様性の尊重

「多様性の尊重」は今世紀最も重視されている価値の一つです。人種、民族、宗教、文化、あるいは国籍、出身、職業、嗜好、家族、容姿、年齢、障がい、健康状態、性、資格、財産などから差別をする事は全く許されません。

公に差別的言動をすると刑罰や社会的制裁が科されます。言動に注意するだけでなく、違いを尊重する心、価値観を身につけることが重要です。

1. ヘイト・クライム（憎悪犯罪）

差別意識から生じた憎しみによる理不尽な犯罪に対して、世界的に厳しい刑罰が適用されるようになってきています。憎悪の感情は他者を尊重する心を失わせ、陰惨な犯罪を引き起こします。

2. テロリズム

すでに世界中で多くの人々が巻き込まれ、命を失っています。宗教や民族についての対立や差別意識が原因といわれています。

3. いじめ

いじめもまた他者を自分と違う人格として尊重しないことが原因です。自尊心がある人間はいじめをすることで自らを卑しくはしません。

すべての人を一個の独立した人格として認め、敬意をはらい、尊重することは最も重要なことであり、自分自身の尊重につながります。

2. 地球環境問題

日本は今後30年で二酸化炭素の排出量を80%以上削減すると国際的な約束をしています。その実現の為社会は激変します。我々自身の考え方や行動も変えざるをえません。地球の自然環境を守っていくことは帝京科学大学の建学の精神であり、特に関心と使命感をもって真剣に考えていかなければなりません。

1. エコロジー

これまでボランティア的位置付けだったエコロジーは、今後、社会のルールが変わっていきます。これに反する言動は社会的に認められなくなっていきます。常に意識を持つように心がけなければなりません。

2. 異常気象

異常気象は年々増加し、激しくなっています。巨大台風や集中豪雨の予測情報は身を守る為にも重要です。また、これまでになかったレベルの災害が起こることが予測されています。気候の状態や気象に関心を持つようにしましょう。

3. ブラック企業、経済犯罪

近年、法を犯して客や従業員、そして社会を欺き騙す企業が増加しています。大学生など若者を騙す経済犯罪も増加しています。また、有名な大企業が不正の発覚によって破たんする事件が増えています。

1. マルチ商法

会員を紹介すると大きな収入を得られるといううまい話により、多くの人が犯罪に巻きこまれています。必ず破綻して大きな経済被害を与え、人間関係を破壊するので、非合法化されています。「これは合法」と言って勧誘します。

2. 高額商品の分割払い契約

20歳未満なら保護者が契約を取消させることが可能な場合があります。頭を冷やしてから断ることができるクーリング・オフ制度も整備されています。まずいかな、と思ったらずぐに保護者や大学の相談窓口、消費者生活センターなどへ相談することが肝心です。

3. ブラックバイト、ブラック企業

仕事上のミス等に対して高額の制裁金を科すことや弁償金を求めることは違法です。そういったアルバイト先、就職先には注意が必要です。様々な圧力で辞められなくなるケースもあります。事前に十分情報を確認しましょう

§ 2. ハラスメント

1. ハラスメントの禁止と罰則

今日、ハラスメント行為には厳しいペナルティが科されるようになってきました。また、多くの団体に相談窓口が設置され、被害者に対する丁寧な対応が義務付けられています。

なにが嫌がらせ行為か、どういう刑罰や制裁が科されるのかを知ることで、加害者や被害者になるのを防ぐことができます。

2. ハラスメント=いじめ・嫌がらせ

ハラスメントとはいじめ・嫌がらせ行為です。嫌がる行為をすれば全てハラスメントになります。自分の行為が原因で誰かが嫌な思いをすれば処分や制裁、刑罰の対象になる可能性があります。他者の心に対して十分な配慮をしましょう。望まない状況を強いることは違法です。

3. 回避や抗議がしにくい状況で発生

実際のハラスメントは立場や状況、環境などから回避や抗議がしにくいところにつけ込んで行われます。大ごとにしたくない気持ちにつけ込まれる場合も多いです。ハラスメント行為は、場合によっては、脅迫罪や強要罪、名誉毀損罪、侮辱罪、暴行、傷害罪に問われ、懲役刑などの刑事罰を受ける可能性もあります。また、脅迫による口止め行為を行った場合、より重大な違法行為となる可能性があります。

4. ハラスメントの種類

状況と嫌がらせの種類によって多くの種類のハラスメントが存在します。

職場で立場の弱さにつけこむのはパワー・ハラスメント（パワハラ）、性的な言動に関するのがセクシャル・ハラスメント（セクハラ）で、大学などで研究に関連して上司や教員、指導者が発生させるのはアカデミック・ハラスメント（アカハラ）、人格や心を傷付ける言動はモラル・ハラスメント（モラハラ）と呼ばれます。

5. 合法的な嫌がらせは不可能

いじめ・嫌がらせを正当化することはできません。

他者の心に傷を与えようとする意思つまり「害意」を持たないことが重要です。他者に対する害意がある場合、言動に反映されてしまうものです。

6. ひとの心の推量と尊重

ヘイト・クライムやハラスメント行為は、他者の心を押し量らないこと、他者を人（人格）として尊重しないことが原因です。

人間の知性は他者の心を考えることで生まれました。その思考は自分自身を尊重することと密接に関係しています。

§ 3. 人間関係

1. 大学の友人関係は生涯つづく

大学の友人関係は大人として作るはじめての友人関係です。利害や立場の違いのない純

粹な人間関係として、生涯続く場合も少なくありません。

2. 二十歳前後の精神の変化

家族の中で保護され、学校では集団の中に同化していた時代を過ぎて、大学生は独立した人格として精神的に自立していかなければなりません。

就職して利害関係や上下関係に囲まれた社会で生きるためには、その圧迫と孤立をもものともしない人格、他者へ依存しない精神を確立しておかなければなりません。また、おのずと独立しようという心の変化が起きてきます。

3. 友人に対する敬意

独立した人格として互いに敬意を持つ人間関係には、親しさだけでなく適度な緊張と距離が必要です。群れの中に自分がいるのではなく、独立した人格が交流するのが大人の人間関係です。人間関係に心の拠り所を求めること以上に、互いに敬意を受けられるようになることが重要です。

4. 人間関係のトラブル

人格形成の途上ですから、意識の違いによるトラブルが生じることがあります。そういう場合、子供時代の経験から解決法を考えるのではなく、自分自身の精神的成長につながるように考えることが必要です。

文学や社会的問題、歴史や思想などに関心を向け、尊敬すべき人格や生きかた、在りかたの理想や価値を見つけることが解決の重要な手がかりになります。

